

広報市民リポーターだより
第4回

ごみ処理費用の ムダをなくそう

現在、日本は経済大国となった結果、物が豊富に回り、私たちは何でも手になることができます。そのことが物を大切にしなくなり、まだまだ使える物でも新品であっても、ごみとして捨てられています。考えてみると、四十年前のごみはもうこれ以上は使えないといった「貧乏ごみ」、現在のごみは「ぜいたくごみ」と言っても過言ではないと思います。これでは、ごみの量が年々増えていくのは当然のことです。私たちが、私たちの税金が、ごみ処理のためにどんどん使われるのは当然のことです。

市では、ごみ処理費用のムダを少なくしようと、今年の六月から中身の見えるごみ袋を使っている。分別収集を、いくつかの町内で実施しています。その状況などについて、菅原環境衛生課長に伺いました。

燃やせるごみは

毎日70トン

燃やせるごみは、沼館にある

広域第一環境センター（ごみ焼却場）で処理されています。ここに持ち込まれるごみの量は、年々増えてきていて、現在一日約七十トンにも達しています。そのため、焼却場の処理能力の限界に近づいてきているそうです。現在市では、家庭から出るごみを燃やせるごみ、燃やせないごみ、粗大・処理困難ごみに分別してそれぞれの収集日に出していただいています。ごみの分別は、チラシなどの配布で周知を図っていますが、なかなか守られていないのが現状です。皆さんがごみを出す際、市販の黒いビニール袋や買い物袋、ダンボール箱など、いろいろなものに入れて出しています。それらは中身が見えないため、分別が徹底されないことのひとつになっているようです。袋の中身が見えないことから、燃やせるごみの中にスプーン、ナイフ、犬の鎖などの金属類が混じっていることが頻繁にあります。そのため、燃やす前にごみを砕く破砕機の刃が欠けるなど、機械の

広報市民リポーター

工藤五郎（西大館町）



左が工藤リポーター

モデル町内では 徹底した分別

故障の原因になっているそうです。機械の修繕費が年間一億円にもなると聞いて驚きました。

分別収集の促進と修繕費削減などのため、市では、今年の六月から通町、花岡本郷上、西大館町の三町内をモデル地区に選定し、指定ごみ袋を使用した分別収集を試験的に実施しています。指定のごみ袋は、燃やせるごみの半透明のものと燃やせないごみの透明なもの二種類です。燃やせるごみの袋は、焼却時に急激な発熱量を抑えるように、炭酸カルシウムを混入した加工になっているそうです。

モデル町内では袋に氏名を記入して出してもらうほか、市では収集の際にチェックして悪いのには分別不良、処理不能、指定袋以外などのステッカーをはり収集しないなど、徹底した分別を指導してきました。また、ごみの分別に加え、生ごみ処理器（コンポスト）の利用、新聞・雑誌やビン・カンなどの資源ごみの回収も奨励してきました。いずれの地区でも実施三カ月を経過した状況は、分別が徹底されるようになり、ごみの量が実施前に比べて二割から三割減少し、ごみ一時預かり所がきれいに清掃されるようになるなど、予想以上の効果があったとのことでした。

市では、来年三月までモデル地区での分別収集を実施してもらい、いろいろなデータを集めることにしています。そのデータを基に、指定ごみ袋を使用した分別収集をできるだけ早い時期に全市で実施するよう検討していきたいとのことでした。

私が住んでいる町内もモデル地区の一つになっています。初めは、袋に名前を書いて出すのに抵抗があったようです。また、分別がしっかりしていない袋があったり、収集日に巡回していた町内役員の方々が分別しなかったこともあったようです。今はそんなこともなくなり、ごみ分別に関して町内の皆さんに理解していただいています。

皆さんがごみを出す際、燃やせるごみと燃やせないごみを分別するちょっとした心遣いで、年間一億円もの修繕費が節約になるのです。ごみはごみ一時預かり所へ出せばよいというのではなく、一人ひとりがごみ処理に対する認識をもち、分別収集に協力していくことが必要だと思います。

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。